

小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成27年11月13日(金) 午後3時00分～4時30分
- 2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 加藤会長、橋本副会長、大川委員、大澤委員、大場委員、角田委員、川瀬委員、最勝寺委員、神野委員、長澤委員、錦織委員、長谷川委員
 - (2) 事務局 日比谷子ども青少年部長、北村子ども青少年部副部長、石井青少年課長、宮川青少年課副課長、浅野青少年相談担当副課長、淵上育成係長、脇主査、名取主任、中村主事
- 4 議 事
 - (1) 協議事項
 - ア 小田原市孝養賞受賞者の選考【非公開】
 - イ 小田原市善行青少年及び優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考【非公開】
 - ウ 青少年と育成者のつどいについて
 - (2) 報告事項
 - ア 平成27年度上半期青少年関係事業結果報告
 - イ 平成27年度第1回青少年問題協議会意見交換における懸案事項について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
- 5 会議の概要

(3) 青少年と育成者のつどいについて

議 長	次に、協議事項(1)ウの「青少年と育成者のつどいについて」を議題とする。事務局から説明をお願いしたい。
事務局	「青少年と育成者のつどい」は、青少年育成者と中学生がお互いを知るとともに、市民の理解を深める目的で実施するもの。小田原市とともに青少年問題協議会が主催し、青少年育成推進員協議会が主管する事業である。平成27年度は、12月5日(土)の午前9時30分から川東タウンセンターマロニエにて開催を予定している。例年のとおり、2部構成となっており、前半は、市内12の中学校の代表が作文を朗読する「中学生の主張発表」、後半は、本日、選考していただいた、善行青少年等の表彰式となっている。主催者である青少年問題協議会では、会長である市長と副会長にそれぞれご挨拶を、市議会議長にはご祝辞を、また、教育委員会教育長には「中学生の主張発表」の総評をお願いしたいと考えている。被表彰者には記念品を、中学生の発表者には記念のメダルの贈呈を予定している。

ただいまの件について、ご意見、ご質問等あればお願いしたい。

委員 青少年育成推進員が主管している「青少年と育成者のつどい」だが、実はここ数年、来場者が少ないのが頭の痛いところである。私どもとしては、FMおだわらでPRをお願いしたり、各所にPRポスターを掲示しているが、なかなか来場者が増えないのが現状である。そうしたことから、是非とも諸団体の皆様に声をかけていただき、1人でも多くの方に参加をいただければ、表彰される方も勿論、主張発表する中学生にとってもやりがいが増すと思うので、諸団体の皆様にお声かけいただくよう重ねてお願いしたい。

議長 私も「青少年と育成者のつどい」については、冒頭から全て見させていただいているが、中学生の主張発表は聞き応えがあって、何かしら感銘を受ける。是非各委員の団体の皆様にお声かけいただくようあわせてお願いしたい。

委員 「青少年と育成者のつどい」の主催は青少年問題協議会であり、中学生の今が聞ける機会は他にないので、委員の皆様の各団体へチラシを配布しPRしてはどうか。

議長 質疑も尽きたようなので、「青少年と育成者のつどい」については、ただいまの説明のとおり進めさせていただくこととし、事務局はチラシの配布をよろしくお願いしたい。本日の協議事項は以上となる。

(4) 平成27年度上半期青少年関係事業結果報告

議長 引き続き、報告事項に移らせていただく。
平成27年度上半期青少年関係事業結果報告について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 (資料にもとづき説明)

議長 ただいまの事務局の報告について、ご意見、ご質問等があればお願いしたい。

委員 青少年相談センターの相談受付件数が昨年に比べて52件増えているとのことだが、内容的にどういうものが増えているのか。

事務局	最近特に増えているのが、ひきこもりやニートの問題。特に30代のひきこもりの方の保護者からの相談、または20代の本人からのニートやひきこもりの相談が増えている。また10代、20代前半の発達障害を抱える本人からの相談も増えている。就労していて不安だということで、同じ方から何度も何度も繰り返しご相談をいただくこともある。以前は非行系の相談が多かったが、非行系の相談については、合同庁舎内にある少年保護相談センターが対応していることから、相談体制が充実してきている。本市の相談センターとしては、ひきこもり、ニートをはじめとした親子関係、学校の友人関係に関する相談が増えている。
委員	いじめについての相談はあまりないのか。
事務局	いじめ等については、基本的には、学校や教育委員会の相談体制が充実しているが、相談の中では教育委員会の敷居が高いとか、学校とやり取りをしている中で信頼関係を築くのが難しいといった理由で件数は多くないがいじめに関する相談はある。ただ、我々としては、第三者的な機関という立場で相談を受けているため、基本的には教育委員会や学校には、本人または保護者の同意がない限り情報を流していない。
議長	質疑も尽きたようなので、次の報告事項に移らせていただく。

(5) 平成27年度第1回青少年問題協議会意見交換における懸案事項について

議長	次に、平成27年度第1回青少年問題協議会意見交換における懸案事項について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料にもとづき説明)
議長	ただいまの事務局の説明について、ご意見、ご質問等があればお願いしたい。
委員	スマートフォンの利用に関して神奈川県としても取組をしているので、紹介させていただきたい。今年度7月10日付けで小・中学生の保護者宛でリーフレットを配布しているので活用いただきたい。また、今年3月には横須賀市が携帯スマホスタンダードというもの

を出している。

委員

いこいの森の施設に関して、きつつきという塔ノ峰青少年の家のセントラルロッジに相当する施設が、学校として利用した場合、全員が集まることができず、狭いと言われているが、それに対する対応状況が8人用のバンガローを8棟建てるとというのはポイントがずれているように感じた。また、シャワーが3分で300円だと高く使わない人がいるのではないかという意見に対しても、今後の利用状況を見ながら対応しているが、3分300円だと利用の頻度は上がらない訳で、その利用状況を見たところで変わらないのではないかと感じたがいかがか。

事務局

いこいの森については森林振興を目的とした施設であり、小田原市森林組合が指定管理者として管理運営を行っている。きつつきについては、施設の半分は木工作业を行う場所としており、残り半分が会議スペースとなっている。木造で建設している建物であることから拡充が難しいところがあるため、このような回答となっている。シャワー設備については、ご指摘のとおりだが、今後予定しているバンガローの増設に伴い、利用者が増えることが予想されることから、そうした点を勘案しながら検討することになっているのでご了承ください。

議長

きつつきは、一学年が入りプログラムを行うといったことは想定して作られたものではなく、バンガローも一学年全ての子ども達が宿泊できるよう整備をするものではない。大きな施設をすぐに建て直すといったことは難しいが、利用勝手のよくなるように順次拡張するなど整備を進めてまいりたい。

質疑も尽きたようなので、以上で本日の報告事項を終了とする。

(6) 意見交換

議長

以上で予定していた議事は全て終了となるが、会議終了予定まで、まだ時間があるので、お集まりの皆さんと意見交換の場を持ちたいと考えているが、いかがか。

(賛同の意あり)

議 長 皆様より賛同いただいたので、これより意見交換を進めてまいりたい。意見交換を行うにあたり、事務局より意見交換のテーマについて提案があるので、お願いしたい。

事務局 (事務局から提案説明)

議 長 事務局より提案があったとおり、「青少年への体験活動推進における担い手の確保」というテーマについて意見交換を行うことでよろしいか。

(賛同の意あり)

議 長 皆様よりご賛同いただいたので、会議終了時間である16時30分まで意見交換を行っていききたい。それでは、皆様の団体や地域でも様々な取組をされていると思うので、具体的事例を伺いながら、どのような方が指導者として携わっているかについて、皆様と情報共有が図られればと思う。はじめに本日欠席の委員からご意見をいただいているので紹介させていただきたい。

事務局 今回のテーマの主旨は先ほど説明させていただきましたとおりですが、本日欠席の委員のうち3人の委員から事前にテーマについてご意見をいただいているので、紹介させていただきます。まず、市内中学校全般についての情報になります。各中学校において様々な体験活動を行っているようですが、主に職場体験や、野菜栽培などの農業体験となっているようです。これらの体験活動の指導者は、大部分が学校の先生であり、一部に保護者ボランティアの方、スクールボランティア、スクールコーディネータの方などの協力もいただいているようです。中学校では授業や学校行事が多いことから、指導者を見つけ出して活用していくことはなかなか難しいようです。次に、市内のある高校についての情報になります。様々な体験活動を行っているようですが、主に就職に係るものが大部分となっているようです。このような中、以前から行っている就業体験事業であります「チャレンジショップ」などが特筆されますが、この体験活動は、学校主体ではありますが、お店を取り仕切る生徒がおり、その生徒達が成長していく中で、指導的役割を果たしていくという循環が生まれていくようであります。最後に、ある地区の青少年健全育成会についての情報になります。地域では様々な体験学習が行われており、また体験活動以外にも地域独自の取組を行い、地域の方々に参加していただいているようです。体験

活動には主に地元との関係が多く、自治会や子ども会などと連携し、自治会長や地区子ども会会長などがリーダーシップを取られているようです。また、一部ではありますが、地区の防犯委員との協力により地区のパトロールを実施されており、地域における様々な団体との連携により活動が行われております。

議長 ただいまの欠席委員からいただいた意見を参考に皆様の団体や地域など身の回りで実施されている活動や担い手についてご意見を伺えればと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員 小学校6年の息子が「あれこれ体験 in 片浦」に参加させていただいた。本当に楽しかったようで、日頃、親以外の大人と接する機会があったのだが、全く知らないところにポンと入れられ、その中で一生懸命仲間を作っていくといったプロセスが、息子にとって非常にいい経験になったのだと感じた。そして、私のような母親や祖父母の世代でない、子どもと我々とのちょうど中間の世代にあたる方が指導者として接して下さり、そこで交わされる会話や、指導を受ける時のやり取りがとても楽しかったとのことだった。それぐらいの年齢層の方が担い手になっていただくと親には言いにくいことも相談できたりしていいのかなとも感じた。

委員 青少年育成推進員協議会でも「地域少年リーダー養成講座」を実施している。年齢層としては、40代から60代の世代が大部分を占めている。野外体験である養成講座については、我々と一緒にジュニア・リーダーズ・クラブとシニア・リーダーズ・クラブがともに参加してくれている。ジュニアリーダーは中高生が主体となっており、ひとグループあたり7～8人の参加者に対し、2～3人がつき、さらにシニアリーダーが1人つき、我々推進員が3～4人つくといった体制で行っている。我々大人が子ども達に指導するよりジュニアリーダーやシニアリーダーの方が小学生に対して話が伝わりやすいところもある。参加者とジュニアリーダーがともに成長しているところもある。しかし、ジュニアリーダー、シニアリーダーともにメンバーが減ってきている現状がある。指導者の立ち位置も含め我々推進員も成長しなければと感じている。

議長 現在、ジュニア・リーダーズ・クラブ、シニア・リーダーズ・クラブともに何人ぐらいいるのか。

事務局	シニア・リーダーズ・クラブが15人程度で、ジュニア・リーダーズ・クラブが45人程度である。ジュニアリーダーにしてもシニアリーダーにしても徐々に会員が減少傾向にある。委員からのお話のとおり、中学生や高校生になると学校以外で塾、クラブ活動などが忙しくなることがその大きな要因かと感じている。
委員	実は、昨年に息子が「地域少年リーダー養成講座」に参加させていただいた。そして6年生になり、私にジュニアリーダーに入りたいと言ってきた。大人が頑張っている、大人が子どもに指導することは、子どもにとってある意味当たり前なことだが、自分より少し上の世代である中学生や高校生が一生懸命指導してくれる姿が、息子にとってとても刺激になったようで、とても格好良く見えたのではないか。
議長	自分の体験を振り返ってみると、確かに指導される大人がいる中で、直接的に影響を受けたのは自分よりすぐ上の世代だったと感じる。中学生であれば高校生、高校生であれば大学生といったように、世代のつながりというのは大切である。以前はオーシャンクルーズでのプログラムでそうしたところをいい意味で体験できた訳だが、現在行われているプログラム、例えばあれこれ体験に参加した方が、今度は指導する側になっていくといった仕組みをきっちりと体系づけていくことが重要である。子どもが体験し得る体験の機会の中から将来的に指導者側の人間を育てていけるとよいのではないか。それでは続いて、学校の活動の中では宿泊体験学習をされていると思うが、子ども達の育成と言う点ではいかがか。
委員	体験活動というと1泊2日の宿泊学習ということで、南足柄にある足柄ふれあいの村で飯ごう炊飯や森林体験を行っている。その他には、コミュニティースクールの関係で自治会に加入している2200世帯を対象に地域の声アンケートを実施し、地域の方が学校にどういことを望んでいるかについてアンケート結果を取りまとめている。その中で体験活動という点で申し上げれば、地域の清掃を一緒にやってほしいとか、プランターに花を植えて地域をきれいにしてほしいといった声があがっている。ボランティアはだいたいが保護者の方だが、60代、70代の方から声をかけてくれれば協力したいという方もおられるので、そういう方達に地域の見守りをしてもらえればと考えている。

議長

体験活動という、つい宿泊を伴うものと考えがちだが、先程の欠席委員の取組の中にもあったように、地域における日常的な関わりの中で実施できるものが沢山ある。地域の中で活躍の場があればやりますよというお気持ちの方が潜在的に多くおられるのではないかと。研修プログラムのリーダーということでもなく、ちょっとした日常的な視点で考えていけば、体験活動の受け皿になっていただける方は案外おられると思うので、そういう意味での働きかけ、掘り起しについて、学校が取り組まれていることが何かのきっかけになればと思う。

委員

市内の回覧でお配りしている『市子連だより』をもとに市子連における体験活動について説明させていただきたい。先程、ジュニア・リーダーズ・クラブの話があったが、以前、栃木県の合併により現在は日光市となっている今市市と小田原市との間で交流があり、交流交歓会を25年くらい続けてきた経緯がある。その時は必ず参加者とともに市子連の役員とジュニアリーダーが指導者という立場で参加していた。交歓会から帰ってきてから、6年生の参加者が交歓会でのジュニアリーダーの姿を見て「ああいうリーダーになりたい」という話を良く聞くことがあった。今市市との交流事業が終了した後は、青少年交流事業として『チャレンジ・アンド・トライ』を実施している。6年生を主体に各学校から男女1名ずつ参加してもらい、地域や学校、子ども会のリーダーになれるような人材を養成する目的で行っている。今年で4回目ということで、過去3回は1泊で小田原市内外の施設で実施した。体験学習は様々なパターンがあり、ご飯を作ったりキャンプファイヤーやハイキングを行ったりということがあがるが、我々はあくまでも子ども達の研修という観点で食事については調達したもので賄ってきた。これは、できるだけ子ども達の育成研修にかかる時間を確保するための措置である。市子連の役員は、県青少年センターから何年かにわたり指導を受けており、市子連の役員だけで子供たちに研修を行えるようになったため、講師を外部に依頼することなく我々役員が対応している。今年7月11日に小田原アリーナのサブアリーナで実施した。開催場所の選定理由として雨天となった場合の対応が求められるため、室内の広い場所を確保できる会場ということで小田原アリーナを会場とした。具体的な活動内容だが、まず、「アイスブレイキング」というものを皆さんもご存知かとは思いますが、『氷が解ける』という意味で初めて出会った人たちが固い氷の状態がだんだん打ち解けてくるということで、各種研修会でも必ず「アイスブレイキング」を

行っている。子ども会の行事でも最初にアイスブレイキングを行い、皆が打ち解けてくると、スムーズに行事が進んでいく。次に、『KYT』だが、企業で実施しているものを子ども会でも行っている。危険予知トレーニングという意味で、行事を行うにあたり、どうしたところで危険が潜んでいて、どうすれば怪我の無いように行えるのかを参加者全員で考え、行事中の危険予知につなげている。次に『学校紹介』や『アクティビティ』というプログラムがある。まず『学校紹介』だが、参加した子ども達が、自分の学校について他の学校の子ども達に対して紹介し、お互いの学校のことを知ってもらう目的で行っている。具体的には、学校名とクラス数や児童数、また、自分の学校は他の学校と違ってこんなことを行っている、これだけは絶対紹介したいといったことをそれぞれが模造紙に書いて紹介している。そして『アクティビティ』だが、一言で申し上げれば子ども達と色々な体験をするというもの。ひとグループ8人で色々なゲームを行うのだが、8人が協力しないとなかなかクリアすることができない内容等となっている。こうしたプログラムを単に体験して帰らせるのではなく、活動内容が書かれた冊子を配布することで、地域の子ども会で何か活動をする場合に活用ができるように配慮している。また冊子の裏面には必ず『おだわらっ子の約束』を印刷しており、行事を始める前に必ず皆で確認してから活動を始めている。最後に『ふりかえり』ということで、行事の中で様々な体験をしたことについて感想を書いてもらっている。私と家内が週に何回か買い物に行く時に、小学生から『チャレンジ・アンド・トライ』の時のおじさんだね。」と声をかけられたことがあった。すると、保護者の方が「あの時は非常に良くしていただきありがとうございます。家族で旅行に行った時に『チャレンジ・アンド・トライ』の話をしてたんですよ」と話してくださり、指導者冥利に尽きる思いがした。イベントでは、子ども達も最初はなかなか打ち解けないが、最後には非常に仲良くなり「また会おうね」と言葉を交し合うまでになる。以上で活動の紹介とさせていただきます。

議長

ありがとうございました。委員からは、あれこれ体験の話に基づいて世代のつながりの中で指導者と指導される側の関係ができてくるという話があり、副会長からは、今取り組んでいただいている内容についてかなり具体的な話をいただき、学校からは地域というフィールドの中、宿泊体験に限らない取組の中で地域の方も指導者といった受け皿になり得るといった話があった。この後、PTAや地域の諸団体の活動における担い手について意見交換をする予定だっ

たが、終了時間が近づいているため、まとめさせていただければと思う。他に皆様から情報提供などあるか。

委員

中学校であいさつ運動を年に何回か行っている。中学生は我々にあいさつをするのが恥ずかしいのか、こちらから大きな声であいさつをしても通り過ぎてしまうことがあるが、大人数の時に1人があいさつすると、次々に「おはようございます」とあいさつしてくれる。また、先程の体験活動の話だが、私の孫が今年5年生になり、富士見小学校の宿泊体験学習に参加したそうで、非常に楽しかったと喜んでいて。その様子を聞いた小学校3年生の孫も自分も行きたいと言っていた。

議長

地域での宿泊体験学習については、まだ緒に就いたところであり、何とか地域性を活かして広げていきたいと考えているが、受け皿となり得る団体や地域の協力が必要となるので、そうした点においても是非皆様にお力添えいただきたい。本日の意見交換については、途中になってしまったが、担い手、育成者といった指導的立場に立って子どもを育成していく方達、将来的には今の子ども達がこうした立場になりうるわけだが、この点については、重要なテーマであるので、引き続き関心をもって取り組んでいただくとともに、良い意味での情報提供とご提言をいただきたいと思うのでよろしく願いしたい。それでは時間になったので、意見交換を終了させていただきたい。本日のご意見は、今後の青少年関係事業の参考とさせていただく。

(7) その他

議長

それでは、最後に、(4) その他として、皆さんから何かあるか。事務局からは、何かあるか。

事務局

(事務局説明：青少年健全育成講演会について)

議長

他になければ、以上をもって本日の議事を終了させていただきたい。ご協力ありがとうございました。